

第13回関東大学春季交流大会 実施要項

1. 主催 関東ラグビーフットボール協会
2. 目的 大学ラグビーの競技力向上を目的に、春・秋2シーズン制の公式戦にすることで、年間を通じた強化を目指す。
また関東大学対抗戦とリーグ戦の交流や、招待試合や各地フェスティバルなどに組み込むことで、学生にラグビー精神を周知するとともに地域普及をも図る。

3. 大会実施日

<総当たり戦> 令和6年4月21日(日)~6月23日(日)

4. 出場チーム 対抗戦A、リーグ戦1部、対抗戦B1位、リーグ戦2部1位 計18チーム
Aグループ: 対抗戦A・リーグ戦1部 前年度秋季大会の各1~3位
Bグループ: 対抗戦A・リーグ戦1部 前年度秋季大会の各4~6位
Cグループ: 対抗戦A・リーグ戦1部 前年度秋季大会の各7・8位扱い、
対抗戦B・リーグ戦2部 前年度秋季大会の各1位扱い
※秋季リーグの結果、入替が生じた場合は、その結果を反映する。

5. 参加資格

- ① チームの参加選手、スタッフは、原則として大会開幕以前に所属チームを通じ、当該年度 Rugby Family にチーム登録、個人登録をしていること。追加登録がある場合は、事前に協会に報告し登録を行うこと。
- ② 選手は、4年制大学の学部在籍する正規の学生及び大学院生であること。但し、研究生、科目等履修生、聴講生、研修生は含まれない。
- ③ 交換留学生については、出場する大学に籍がある場合、留学期間に関わらず出場する事ができる。但し、本規約は、本大会のみ適用し、上位大会等への出場はこの限りではない。
- ④ 外国籍の選手は、正規の学生として入学し、その後、継続的に日本に居住し、部員として練習、その他の活動を共にしていること。なお、本大会においては、(公財)日本ラグビーフットボール協会「チーム登録等に関する規程」第4章外国人選手第16条の規定に準ずる。この規定の内容が完了し、当該年度 Rugby Family 個人登録をしていること。
- ⑤ (公財)日本ラグビーフットボール協会「チーム登録等に関する規程」に違反するチーム及び選手の参加は認めない。
- ⑥ 参加選手は所属チームにおいて、傷害保険に加入していること。
- ⑦ 参加資格に疑義のある場合は関東ラグビーフットボール協会が裁定する。
- ⑧ 本大会における Rugby Family への登録締め切りは、4月7日とする。新入生に関しては、出場する試合の3日前までに登録を行うこと。

※3月25日11:00~登録開始。かならず、チーム登録・個人登録手続きを行い、登録費支払いまで完了すること。(3月19日~22日(の期間)は、システムメンテナンスの為、登録に関する作業実施不可)

6. 競技方法

<対戦方式>

各グループにおいて対抗戦3校・リーグ戦3校の計6校での総当たり戦を行う。

<順位決定>

順位決定方法は勝ち点制度を用いて決定する。

順位決定方法について

① 勝ち点の多い順に順位決定を行う。

勝ち：4、引分：2、負け：0 不戦勝：5 不戦敗：0 不成立：2

ボーナス点として以下の勝ち点を与える。

- 負けても7点差以内ならば、勝ち点1を追加。
- 3トライ差以上での勝ちならば、勝ち点1を追加。

※不戦勝・不戦敗の試合があっても、実施された試合のボーナスポイントは消滅しない。

※試合中に、怪我、その他の理由によりプレイヤーが退場し、チームが試合を継続する事が難しいと判断した場合、試合はその時点で終了とし、当該チームは不戦敗、対戦相手は不戦勝として扱う。

全試合終了時点で、不戦勝・不戦敗・不成立の勝ち点を含み、最も勝ち点の多いチームを1位とする。

○試合が中止となった場合

(ア)不可抗力により、不成立となった場合、双方のチームに2点を付与する。得失点は0-0として扱う。

(イ)一方のチームの責に帰すべき事由により、試合中止となった場合、その帰責性のあるチームは不戦敗として扱い、勝ち点は付与されず、対戦チームに5点を付与する。得失点は0-21 (3T3G)として扱う。

(ウ)双方のチームの責に帰すべき事由により、試合中止となった場合、双方不戦敗として扱い、双方のチームに勝ち点は付与されない。得失点は0-0として扱う。

②全試合終了時点で勝ち点と同じ場合、次の各号の順序により順位を決定する。

- (1) 全試合の勝利数の多いチームから上位とする。
- (2) 当該チーム同士の試合で、勝ち点の多いチームを上位とする。
- (3) 当該チーム同士の試合で、得失点差の多いチームを上位とする。
但し、当該チームが2チーム間の比較であった場合、前項(2)にて比較済のため、(4)の項目へ進むこととする。
- (4) 全試合の総得失点差の多いチームを上位とする。
- (5) 全試合で総トライ数の多いチームを上位とする。
- (6) 全試合でトライ後のゴール数の多いチームを上位とする。
- (7) 当該チームで抽選を実施する

※上記規定が合理性に欠け、妥当ではないと判断される場合、関東協会大学委員会にて協議し、関東協会理事会で判断を行う。

◆試合の延期・不可抗力による代替日の設定について

○試合の延期について

試合の延期は、不可抗力による代替日の設定を除き、春季大会開幕以降一切行わない。開幕とは春季大会の中で最も早い試合の48時間前とする。

○不可抗力による代替日の設定について

不可抗力によって実施できない場合は、一旦中止として扱う。中止となった試合について、両チームの調整で代替日が設定できた場合は、その試合を春季大会として行う。代替日を設定する場合は、下記の対応とする。

- 本来の実施日の翌日 17:00 までに代替日の日程を関東ラグビーフットボール協会へ連絡すること。
- 代替日は、土曜日、日曜日、祝日で設定すること。
- 代替日の期間は、本来の実施日から6月23日までとする。

上記で調整できない場合は、そのまま中止となり、順位決定方法に基づき、順位を決定する。

◆チームの責に帰すべき事由

チームの責に帰すべき事由とは、いかなる理由も問わず、試合登録人数を満たせなかった場合とする。不可抗力とは、双方のチームの責に帰すべき事由によらない悪天候・地震等の天災地変、公的機関からの中止勧告、公共交通機関不通等とする。

チームの責に帰すべき事由で試合に出場できない場合、出場できない旨を記載した学長・部長印等が押印された書面を作成、関東協会事務局に提出する。

◆地震・雷・台風等の荒天時における試合成立条件>

○試合日以前（KO前まで）の試合可否判断について

地震・雷・台風等の荒天の影響により、チーム・スタッフ・マッチオフィシャル、観客等、試合に関わる全ての関係者の安全が保障されない場合、主催者側から中止または延期を要請する場合がある。

○試合開催日の試合可否判断について

定義

試合中とは、キックオフ時刻からゲームが終了するまでの時間を指す。

雷とは、光の強弱及び音の大小を問わない。

気象警報とは、気象庁から発表される情報を指す。

○試合中の雷時における「中断」「再開」について

試合中に雷が発生した場合、直ちに試合の「中断」を検討する。「中断」ならびに「再開」の判断はマッチコミッショナー、大会運営責任者を中心に、気象警報を確認し、開催地関係者と協議し決定するものとする。

最後の雷が発生してから30分間は、ピッチ上から離れること。

一旦試合を中断した場合、再開の判断は、中断後概ね30分後を目途に決定するものとする。

試合再開時刻を決定する場合、チームのウォーミングアップ時間を十分に配慮するものとする。

○試合中の雷時における「中止」について

マッチコミッショナー、大会運営責任者を中心に、気象警報を確認し、開催地関係者と協議し、「中止」については関東協会決定するものとする。

○地震・雷・台風等の荒天による試合中止の扱いについて 地震・雷・台風等の荒天の影響により、試合中に中断となった場合、当日現場にいるマッチコミッショナー、マッチオフィシャル、両チーム監督、開催地関係者で対応を検討すること

また中断した場合は以下の通りで勝敗、試合の取り扱いを行う。

- ① 前半が終了していれば成立とみなし、中断時の得点を結果とする。また、ボーナス点付与の対象の試合とする。
- ② 前半途中で中断した場合、試合が再開できるかどうかを、マッチコミッショナーと両チーム、マッチオフィシャルで話し合い、検討する。

その際に以下に準じて検討すること。

- 試合が途中で中断した場合、再開の目処は遅くとも試合中断後 60 分後を目安とする。また、その判断は試合中断後 30 分以内を目安とする。
 - 試合再開時刻を決定する場合、チームのウォーミングアップ時間を十分に配慮するものとする。
- 再開が難しいと判断した場合に、後日の再試合を検討する。その後、後日の再試合が行える場合、中断時点の得点は考慮されず、改めて行う。再試合の実施が不可能の場合は、前半途中で中断した試合を成立とし、ボーナス点付与の対象の試合とする。

7. 競技規則

- ① 2023 年度WR制定の競技規則による。
- ② 試合時間は 40 分ハーフとし、ハーフタイムは 12 分とする。
- ③ ペナルティトライ (PT) は、7 点としコンバージョンキックは実施しない。
また、トライ 1・ゴール 1 扱いとする。
- ④ 試合中にアンコンテストスクラムに変わった場合でも、試合は継続される。その原因を作った側のチームの得点は記録される。勝敗には影響しない。
- ⑤ 競技区域内にいるプレーヤーの内、外国籍選手は 3 名までとする。但しリザーブ選手に人数制限は設けない。
- ⑥ 試合の登録人数はフロントローのファーストインジャリーに対応できることを前提に最低 22 名（フロントロー 5 人以上の登録）を満たしたうえで、最大 26 名まで登録することができる。よって、本大会の登録人数は 22 名以上且つフロントロー 5 人以上とする。

8. 表彰

- ① A グループ・B グループ・C グループの優勝チーム
- ② ベストマナー賞：試合内外の態度、応援マナー、競技規則遵守の観点より別紙書式にて監督推薦

9. 罰則

<カードの適用について>

- ① 累積は、前年9月より以降の試合より持ち越す。但し、大学入学以前の分は含まない。また、本大会の大会期間中、一時的退出(イエローカード)の累積3回目の宣告をされた場合、同一試合2回目でない限りその時点で退場とはならないが、原則として次の1試合には出場できない。当該試合終了後、関東協会規律委員会にて状況確認を行い裁定する。
- ② 退場を命じられたプレーヤーについては、原則として次の1試合には出場できない。当該試合終了後、関東協会規律委員会にて状況確認を行い正式に裁定する。

<カード適用時の外国籍選手の起用について>

外国籍選手にカードが適用された場合、外国籍枠は以下の通りとする。

- ① 「退場」となった場合：退場となったプレーヤーを除く、残ったプレーヤーの人数の内、外国籍選手はオンザピッチ3名まで。
(例：外国籍選手が退場になり、プレーヤーの人数が14名となった場合、その内1名を外国籍選手と入れ替えて外国籍選手の出場人数を3名とすることは可能)
- ② 「一時的退出(シンビン)」となった場合：外国籍選手が一時的退出となった場合、一時的退出の時間中も、その外国籍選手は15名の中に含まれるとみなす。実際にプレーしている人数が14名でも、外国籍選手は上限3名の内訳と数えるので、14名の中で更に外国籍選手を1名加えることは認められない。

10. 運営に関する諸事項

- ① 本大会は会場で受入が可能な場合は『有観客試合』にて実施する。
- ② レフリーは関東協会が指名、タッチジャッジ・交代表理者・試合記録は両チームで担当すること。
- ③ マッチコミッショナー(会場によりサブマッチコミッショナー)を関東協会より派遣する。
- ④ マッチドクターはチームドクターに依頼する。
- ⑤ ホストチームはテクニカルゾーンと大会本部を設置する。
- ⑥ ホストチームを対戦カード、左側に記載し、グラウンド設営等を担当する。
- ⑦ キックオフ1時間前にプレマッチミーティングを試合会場内にて開催する。参加者はマッチコミッショナー、レフリー、監督(または準ずる者)、チームメディカルスタッフ、主務とする。
- ⑧ 出場メンバーを、キックオフ48時間前までに関東協会(招待試合の際は試合開催地協会)と対戦チームに送付すること。
(ア)48時間前に登録した出場メンバーの変更については、先発登録メンバーとリザーブ登録メンバー間での入替も含め、原則認めない。
(イ)48時間前登録以降に選手の負傷などやむを得ない理由で、登録メンバーの入替を行う場合は、相手チームおよび、関東協会事務局へ連絡すること。
(ウ)プレマッチミーティング終了以降、試合開始までに、ウォーミングアップ中の負傷などやむを得ない事由により登録メンバーの入替を行う場合は、マッチコミッショナー・マッチオフィシャルの確認を得て、相手チームに伝えること。上記、いずれかの変更が生じる場合、変更が必要となった時点で、関東協会事務局に連絡すること。
- ⑨ 当番チームは、試合終了後30分を目途に事前に作成した試合記録用紙を関東協会まで送付すること。

⑩ 秋季公式戦で着用する予定のジャージをチームの1st ジャージとし、同色または類似して見分けにくい場合は、双方の話し合いによって決める。

⑪ アフターマッチファンクションは本大会では実施しない。

⑫ 試合球は、スズキスポーツ・セプターより提供されるボールをチームへ支給する。

ボールは各チーム同数支給する為、対戦カード右側のチームが試合球を持参する場合がある。

<テクニカルゾーンについて>

① テクニカルゾーンは、ハーフウェイラインより左右対称となる位置に、タッチラインから2m以上離れ、かつハーフウェイラインから5mの地点から始まるのが望ましいが、各会場の状況に応じてイコールコンディションになるよう設置すること。

② テクニカルゾーン内に入れるのはチームドクター、セーフティーアシスタントなど
(ア) メディカルスタッフ2名以内と給水係5名以内とする。テクニカルゾーンに入る者は関東協会から貸し出されているメディカル、ウォーターのビブスを着用すること。

(イ) 上記スタッフは通信機を付けることはできるが、戦術上の指示・連絡を行ってはならない。

③ メディカルスタッフは、タッチライン沿いで待機することができるが同一チームのスタッフが同じサイドにいてはならない。

④ 給水係はキックティー係を兼任し、テクニカルゾーン内で待機しなければならない。ペナルティーの際は給水できない。(ペナルティーキックの間は給水行為を禁止とするが、キックティーを運ぶ給水担当者からキッカーへの給水対応は可能とする。但し、持ち込み可能なボトルは1本のみとし、キッカー以外への給水は認めない。また、ディフェンス側の給水行為は認めない。)

⑤ 監督、及びヘッドコーチがメディカルスタッフ、及び給水係としてテクニカルゾーンへ入ることはできない。(コーチは可能)。

⑥ テクニカルゾーン内での治療行為はできない。

⑦ テクニカルゾーンの運用に関して違反行為がある場合、マッチオフィシャルやマッチコミッショナーから注意を与えることがあり、程度によっては退場させることもある。